西高新聞が見つめた、西高の70年 ⑤ 最近の3年間



正門右手の柏の木



前身「婦負農高新聞」から72年。
この瞬間を、新聞に残す。





2026年（令和8年）

剣を執り、限界の先へ！
50回目の熱戦。威風堂々

- フェンシング部が全国選抜ベスト8・北信越男女アベック優勝
- 第50回体育大会、青龍団が総合2連覇
- 美化活動やフォトウォークラリーで地域と交流



高校総体北信越大会フェンシング競技団体戦　男女優勝





婦中地区フォトウォークラリー



速星駅清掃ボランティア

2025年（令和7年）

速星から世界へ、心と心をつなぐ一想いをカタチに

- 県高文祭ポスター題字に本校生徒の書を採用
- 速星駅への手作り座布団で家庭クラブに感謝状
- 卒業生から100周年記念の日本画「眠るネコ　森の中」を寄贈



ポスター題字揮毫



揮毫題字とともに



日本画寄贈される



JRから感謝状

2024年（令和6年・創立100周年行事）

100年の節目に咲かせた
青春＿百花繚乱　婦中へ感謝

- 創立100周年記念式典・記念講演を開催
- 「100th」人文字撮影や記念植樹を実施
- 100周年記念三柏展を開催
- 新聞部が年表「100年のあゆみ」を制作



記念植樹



募金箱



100周年記念式典



100th　人文字撮影

校章のルーツは、東大！？

本校の「三つの柏」には壮大な志あり！初代校長、「農業の東大に」と第一高等学校の校章にあやかって考案。なんとその姿、今も東大駒場に残る！

東大教養学部大扉



最新号を“昭和風”にしてみた！

昔の『婦負農高新聞』は、まるで講談のような力強い語り口。そこで最新161号の記事を、内容そのまま昭和風に再現！令和の記事が昭和に化ける。ぜひ読み比べを。



令和8年9月18日　西高新聞　第百六十一号

インターハイ女子学校対抗戦
富山西高、岩国工業と大熱戦
―惜しくも四対五で敗れる―

八月十二日、インターハイ女子学校対抗一回戦が行はれ、本校（富山西高）は強豪岩国工業（山口）と、最後まで勝敗の分らぬ大熱戦を展開した。

最大の勝負どころは、大将同士の相打つ第七試合であった。佐藤選手は四対二と勝利まであと一点に迫り、懽機到来と見えた直後、試合は暗転。僅か一分間に三点を奪はれ四対五と逆転負けを喫した。まさに「魔の一分間」であり、西村監督も「あそこが勝負の分かれ目であった」と悔しさを滲ませた。

つづく第八試合は西野選手が執念で見事奪ひ返し、土壇場で四対四の同点に追ひ付いた。勝負の行方は選選第九試合へ持ち越された。友崎引かぬ激闘。あと一本――。校長、教員、生徒、保護者らの大声援が会場狭しと響き渡る中、無念にも最後の一本を奪ったのは岩国工業であつた。

四対五で惜敗し、友崎選手は試合後悔涙に暮れた。勝利へ真にあと一本であったが、一本を巡る死闘と全校一丸の熱い応援は、学校対抗戦の真髄を示すものであつた。新チームの更なる飛躍に期待したい。

豊かな大地、新たな未来へ